

## 第52回（令和5年度）全国豆類経営改善共励会受賞者紹介

第52回「全国豆類経営改善共励会」が開催され、東北管内では、山形県の株式会社萩原農園様が農林水産大臣賞を、宮城県の富長生産組合様が農産局長賞を受賞しました。

萩原農園様は、実需に合わせた品種の作付け、高単収・高品質の達成、排水対策や除草の徹底・適期防除、大豆の生産から加工・販売を行っている点等が高く評価されました。

富長生産組合様は単収の高さやR4年から子実用とうもろこしを導入し、水稻の乾田直播との3輪作でブロックローテーションの確立を目指している点等が評価されました。

全国豆類経営改善共励会とは・・・

経営規模拡大や生産コスト低減、収量・品質の向上による所得の向上等に取り組み、豆類生産の経営改善の面から先進的で他の範となる経営体・生産集団を表彰しています。令和5年度は、全国から186件（内東北から23件）の応募がありました。

受賞者の単収・等級比率等		
部門	大豆 家族経営の部	大豆 集団の部
褒賞	農林水産大臣賞	農産局長賞
受賞者	株式会社 萩原農園	富長生産組合
所在地	山形県高畠町	宮城県大崎市
単収	279kg/10a	235kg/10a
県単収	134kg/10a	166kg/10a
県単収比	208%	142%
等級比率	1等	71.4%
	2等	15.7%
	3等	10.6%
	特定加工用等	2.3%
		—
		33.6%
		37.5%
		28.8%



全国表彰受賞者の皆さん  
(於：明治記念館)



出典：R5年度全国豆類経営改善共励会成績概要から

詳しくはこちら：<https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/daizu/attach/pdf/index-10.pdf>

【問合せ先】：東北農政局 生産部 生産振興課 022-263-1111（内線4087、4282）

### 秋の味覚（毒キノコ）にご注意を！

食用キノコと間違えられやすい毒キノコは、見た目が似ているだけでなく、食用キノコと同じ場所に生えていることがあり、見分けることが困難な場合があります。

食用であると確実に判断できない野生キノコは、採らない、食べない、売らない、人にあげないようにお願いします。



スギヒラタケ（写真：新潟県森林研究所提供）

野生キノコに関する情報はコチラ  
<https://www.maff.go.jp/j/syoutan/seisaku/foodpoisoning/mushroom.html>



ツキヨタケ（左）、クサウラベニタケ（右）  
(写真：厚生労働省提供)

【問合せ先】：東北農政局 消費・安全部消費生活課 022-263-1111（内線4321）

### 地域からの便り

各県拠点では「農山漁村の季節の風物詩」、「農産物直売所、農漁家民宿等の取組」、「村おこしイベント」、「農山漁村の行事、お祭り」、「郷土料理」など東北各地域の取組や様子などを東北農政局HPで紹介しています。

そらまめ・スイートコーンで地域の賑わいを！  
町ぐるみで特産振興－宮城県・村田町－



「道の駅村田」のスイートコーン販売コーナーの様子

村田町では、特産品のそらまめとスイートコーンの振興のために、「特産作物生産振興事業」を令和5年度からスタートし、奨励金交付や経費補助などを通して生産者を支援しています。出荷販売額増加のほか、安定した販路確保がなされており、新規就農者も出ています。村田町では、今後も関係者が一体となって取組を継続していく考えです。



(2024年8月20日掲載)

地域からの便りの詳細はこちら

10月は食品ロス削減月間です

10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」及び「全国一斉商慣習見直しの日」です。

食品事業者や自治体による消費者啓発の取組事例や、納品期限の緩和や賞味期限表示の大括り化等の商慣習の見直しや、フードバンク、子ども食堂等への食品提供に取り組む企業を、10月に農林水産省のHPで公表します。



食品ロス削減月間に関する情報は、こちらから https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\_loss/201014.html



食品ロス削減のための消費者啓発に取り組む、企業、地方自治体を募集中

「てまえどり」を含むポスターなどを活用して、消費者の食品ロス削減の理解促進啓発に取り組む小売・外食事業者及びその取組を後押しする地方自治体を募集しています。



募集に関する情報やポスターなど啓発資材の入手は、こちらから https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/230731.html



【問合せ先】：東北農政局 経営・事業支援部 食品企業課 022-221-6146 (内線4075)



高病原性鳥インフルエンザに注意！ 渡り鳥シーズンへの備え

- 防鳥ネットや壁に穴はあいていませんか？
家きん舎の周辺・出入口の消毒を確実に実施していますか？
家きん舎の周囲には、ウイルスの侵入経路が多く存在しています。

鳥インフルエンザに関する情報はコチラ https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html



「豚熱」・「アフリカ豚熱」の侵入防止！

豚熱は、東北では令和2年に山形県の農場で発生以降、宮城県と岩手県で発生しています。近隣国では、豚熱及びアフリカ豚熱の発生が継続しており、侵入リスクが高い状況が続いています。

豚熱に関する情報はコチラ https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/index.html



アフリカ豚熱に関する情報はコチラ https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf.html



野生イノシシの豚熱検査情報に関する情報はコチラ https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/wildboar\_map.html



目的の二次元コードがうまく読み込めない場合は、指などで不要な二次元コードを隠した状態で読み込んでください。

農村振興に関する優良事例

山村活性化支援交付金

＜農山漁村振興交付金（山村活性化対策）＞

山村活性化対策事業（地域資源の潜在力を再評価し、地域ぐるみで活用するためのソフト面の取組を支援）

- 対象地域：山村振興法に基づき指定された振興山村
事業実施主体：市町村又は地域協議会
交付率：定額（上限1,000万円/地区、年）

山村の活性化を図るため、山村の特色ある地域資源の活用等を通じた所得・雇用増大を図る取組を支援します。

山村活性化支援交付金を活用した事例

ムラサキ（紫根）を活用した商品開発による地域活性化（宮城県加美町）

事業実施主体：加美町ムラサキ6次産業化協議会 事業実施年度：令和3年度～令和5年度

取組のポイント

高収益化を目指し、ムラサキ（紫根）の根から有効成分を抽出する新たな方法を開発
需要の高いオールインワンジェルなどの化粧品、石鹸などの保健衛生用品の開発で、ムラサキの6次産業化を実現
地域内経済循環（生産、製造、販売）を確立

活用した地域資源

- ムラサキ（紫根）

取組内容

- 県内私立大学と共同研究によりムラサキ（紫根）の有効成分の抽出方法を開発
市場調査結果により需要の高い化粧品や保健衛生用品を開発
紫根と町のシンボル（葉菜山）をデザインしたロゴマークの制作
県内情報誌や専門雑誌への情報発信 等



山村活性化支援交付金に関する詳しい情報は、農林水産省ホームページをご覧ください。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/tiiki/sanson/s\_sesaku/sesaku.html#yosan

問合せ先：東北農政局農村振興部農村計画課 電話：022-263-1111 (内線4445、4137)



「食・農ひとくち情報」の詳しい情報は、東北農政局ホームページをご覧ください。

https://www.maff.go.jp/tohoku/hitokuti/index.html

「食・農ひとくち情報」の問合せ先：東北農政局企画調整室支援チーム

022-263-1111 (内線4076、4402)

